

大

大きくなったら何になりたい? と聞かれて「パイロット」と答えた男の子は多かった。

た。かくいう私は卒園文集に「スチューデントになりたい」と書いていた。今の子どもはもっと地に足がついた職業を書くようだが。

そんなわけで私にはパイロットは「夢を実現させた、幸運な男」にも見える。空港で袖に4本のゴールドラインが入った制服姿のキャプテンを見かけると、思わず目で追ってしまふ。クルーをぞろぞろひきつれ、フライトバッグを手に颯爽と歩く姿は、頼もしくも、どこかミステリアスな「雲上の人」である。だいたい、あの重そうなフライトバッグの中にいったい何が?

「空港のチャートや飛行関係の規則類、サングラス、ヘッドセットなどの小物類ですね。外側にシールを貼っていますが、これは間違え防止のためです」

思いきり現実的に答えてくれたのは、飛行時間1万時間を超える、55歳のベテラン機長である。パイロットになることはやはり子どもの頃からの夢。実現できたのは「ツッキーだった」と機長は謙遜するが、決して生易しい体力ではとまらないようだ。「1年には120泊近いホテル暮らしが続くと、朝、目が覚めると自分がどこにいるのか、わからないこともあります(笑)」

キャプテンは、新機種に移行するための、7カ月間にわたる訓練期間中だった。家族と離れ、朝から夕方まで訓練をこなし、早朝は

自主練習 夜はコックピットの実物大写真を貼ったホテルの部屋で勉強する。大ベテランの機長が「小僧のような」生活。なぜそこまでしなくてはいけないのでしょうか?

「ベテランというのは人間に対してのみ通用することはです。機械に対しては、できるかできないか。それだけが問題になるのです」

コンピュータの自動操縦になればお仕事はラクになるのでは?

「たしかに、パイロットの役割は操縦よりフライトコンピュータの操作に重点が置かれつつあります。スイッチを押せばコンピュータのほうで勝手に操縦をする。でも、コ



ンピューターが壊れたとき、最後の皆はパイロットなのです。一生に一度あるかないかの緊急事態や故障に備えて、厳しい訓練をするわけです」

機種が変わらなくとも、機長という資格には、半年ごとの身体検査や技能のチェックがある。フライトスケジュールに穴を開けてはいけません。305日、節制を心がけなくてはならない。半端な覚悟で

は、到底続かない。「機長であり続けるとは、さびないレールを走り続けること、イメージしています」心身の健康も腕前も、

常にびかびかにアップデイトされている男、それがキャプテン。権力が大きいのも当然ですね? 「いや、かつては機内でも機外でも一目おかれる(グレートキャプテン)が存在したのですが、もはや時代は変わりました」

グレートキャプテンとは、理屈ぬきに「すごい」と思わせる技術と心臓の持ち主。昔の戦闘機や爆撃機のパイロットだったこともあり、運航の可否まで全部自分の判断で決めてしまふ「黙ってオレについてこい」型のグレートマッチョでもある。コンピュータの扱いに重点が移るようになった現代では、機長、副操縦士に振り分けられた役割を互いに尊重することが求められる、コックピットの中の権

威もバランスの上に成り立っているという。「機外では、絶対君主どころか、乗務員同士、たんなる同僚です」と機長は笑う。

しかし。ある現役キャプテンがダントは言うのである。「機長が座つてよしと言つても、私たちは座つて座りません」航空業界が厳格なタテ社会だから……というよりもむしろ、機長の地位が公私にわたる不断の努力の賜物であることを知るゆえの敬意から、と解したくなる。「一生に一度あるかないかの緊急事態」に備え、常に自己更新を続けるキャプテン・マッチョ。現実を知らねばなお高い雲の上の人に見えました。

Sanctuary of the Lost Samurai

中野香織の「落日のマッチョ」

制服マッチョの頂点、それは雲の上のグレートキャプテン

子どもの頃からの夢を実現して、空飛ぶパイロットになったマッチョな男。そのゴールドライン4本の制服姿に胸がときめくのは、なぜだろう。

Text by Kaori Nakano
Special thanks to Air France Japan



中野香織 (なかの・かおり)

服飾史家・コラムニスト。1962年生まれ。東京大学文学部および教養学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得。英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆業に。文学界のグレートマッチョ、開高健の『開口閉口』(新潮文庫)の帯にコピーを書きました。声にするのは憚られる文句ですが。

1 大空を舞う翼は美しい。エールフランス B777-200 型機。 2 クルーをひきつれて空港を闊歩するキャプテンは、何といってもカッコいい! 3 コンピューター制御の機材だらけのコックピット。どんなベテラン機長でも新機種が導入されれば何カ月も訓練をしなければならぬ。